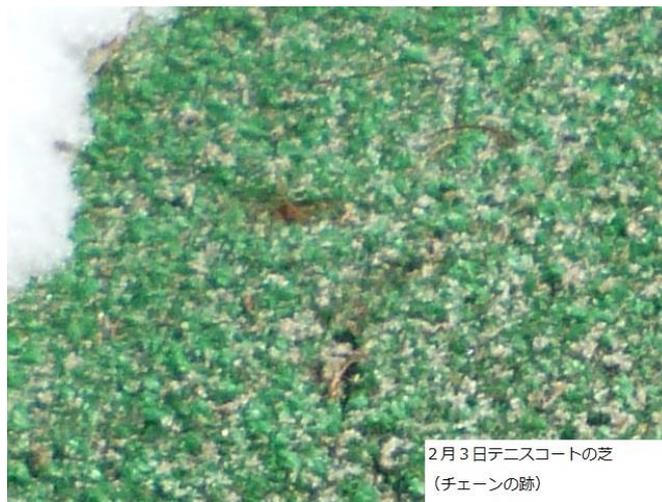


清水高原開発と同時に2面のテニスコートが造られました。四十数年前に当時はやったハードコートの豪華なものでしたが、年とともにあちこちにひびが入り使いづらいコートになっていたのを、数年前に砂入り人工芝のコートに改修しました。

清水高原保健休養地管理組合の独自コートとして、出来るだけ長くいい状態を維持していくために、管理運営に名乗りを上げました。

砂入り人工芝は、出来て2・3年が大事で、いかに砂が芝の間に入るかがポイントで、沈む砂を砂補給しながら慣らしていくことにつき、数年で非常に良いコートに仕上げた矢先、2016年1月末の雨水害の時、もともとドクターヘリ等のヘリポートとしても利用できるよう周りの木を伐採してあったコートに、救援ヘリの発着のため目印「H」を作るための雪かきに重機を入れて行ったため、でかい「H」のところの芝を剥ぎ取ってしまいました。



テニスコートに砂を900KGまいて、傷口を広げないようにしました。1月末の雨水害で、テニスコートにはいたるところに熊の爪痕みたいな芝をはぎとった痕が残りました。4月に1トン西側のコートに砂を入れ傷口が広がらないようにしましたが、砂が足りなく、別荘管理組合から補修費用を予算化して頂きました。

8月23日に砂が届き、24日は水曜テニスの日でしたので、余りにもタイミングが良かったので、思い切ってテニス練習前に半分の面だけでも済ましてしまおうと、今日は5名と人数が少ない日でしたが砂入れ協力を得ることが出来ました。

最初に、砂を2袋(60kg)づつ一輪車に乗せコートに配置していき、次に袋の上側を開けて下側を持って引きずりながら砂を巻き、準備完了。

これからが本番、ブラシを使い砂をコートに均等になるように伸ばしていく、この作業に力が要りまた根気も大いにいる、腰が痛くなってこれ以上やるとテニスが出来なくなる状態となったと同時に半面が終了した。

水曜テニスの開始は40分遅れでしたがそれなりの密度の濃い練習を行った後に、最後の力を振り絞って、残り半面を仕上げました。水曜テニスの方々ご苦勞様でした。

